

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	岐阜市立女子短期大学
設置者名	岐阜市

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数				省令 で定 める 基準 単位 数	配 置 困 難
			全学 共通 科目	学部等 共通科 目	専門 科目	合計		
	国際コミュニケーション学科	夜・通信	5	—	3 1	3 6	7	
	健康栄養学科	夜・通信		—	2 0	2 5	7	
	デザイン環境学科	夜・通信		—	1 0 4	1 0 9	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

シラバス（大学ホームページにて公開） https://www.gifu-cwc.ac.jp/wp/campus_life/about_class/#syllabus

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第 2 号の 2－②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第 2 号の 2－①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

※ 学校名	岐阜市立女子短期大学
設置者名	岐阜市

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	岐阜市立女子短期大学運営委員会
役割	岐阜市立女子短期大学学則第 1 条第 7 項及び第 8 項並びに岐阜市立女子短期大学運営委員会規程により、大学の教育及び組織の充実を図り、円滑な大学運営を実現するため、広く意見を求めるために設置した。 委員は 10 人以内とし、その構成は学識経験者 2 人以上 5 人以内、本学教職員 4 人以内、市政関係者 1 人とし、外部人材 2 人以上の参画を担保した。 協議内容は、①教育課程や学生の進路指導を含む教育及び教員の研究（学問）に関すること②人事・財務を含む大学の運営に関すること③自己・外部の大学の評価に関すること及び④学長が必要と認める事項とした。 委員会の意見や評価の結果は大学教育及び運営に反映させるとともにその概要を公表する。

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考(学校と関連する経歴等)
片岡 潤子 岐阜県立岐阜総合学園高等学校長	2024. 4. 1 ～2026. 3. 31	岐阜県高等学校長協会
後藤 美保 公益社団法人岐阜県栄養士会 代表理事	2024. 4. 1 ～2026. 3. 31	
近藤 潤 岐阜県広告美術業協同組合 理事長	2024. 4. 1 ～2026. 3. 31	
廣田 孝昭 岐阜商工会議所 副会頭	2024. 4. 1 ～2026. 3. 31	
(備考)		

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	岐阜市立女子短期大学
設置者名	岐阜市

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) <授業計画(シラバス)の作成過程> 学内教務事務を担当する教務委員会でシラバスに記載すべき項目を決定し、各科目の担当教員が作成して教務委員会に提出する。シラバスには、 ・科目名、開講学科、担当教員名、単位数、必修／選択区分、科目区分、教員区分 ・授業目的・到達目標 ・授業概要(担当教員の実務経験の内容を含む) ・授業計画(15回分＋試験) ・予復習等 ・評価方法 ・履修条件 ・教科書 ・参考書 を記載する。 <授業計画の作成・公表時期> 毎年11月～3月作成、4月公表	
授業計画書の公表方法	シラバス(大学ホームページにて公開) https://www.gifu-cwc.ac.jp/wp/campus_life/about_class/

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

予め学生に配付しているシラバスに記載の各科目の評価方法に基づき、
 出席状況
 受講態度
 授業への参加姿勢
 課題・レポート・制作物等提出物
 授業内小テスト・中間テスト
 定期試験・追試験・再試験

から授業目的・到達目標への到達度を判断し、科目の成績を合格・不合格に分け、さらに合格を優・良及び可に区分して単位を認定している。

区分	得点	成績評価	G P
合格	100～90 点	A+	4.0
	89～80 点	A	3.0
	79～70 点	B	2.0
	69～60 点	C	1.0
不合格	59 点以下	F	0

合否及び成績は所定の期日までに学生に通知する。

なお、学生は成績評価方法との矛盾や明らかな担当教員のミスと思われる結果に対しては、異議申立書を提出することができる。

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

各学生の履修科目に基づき、下記算出方法によりG P Aを算出している。

$(4.0) \times [A+] + (3.0) \times [A] + (2.0) \times [B] + (1.0) \times [C]$ の修得単位数 $\div$ 履修した総単位数 ([F]を含む)

* G P Aは小数点以下第2位未満を四捨五入する。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

学則、成績評価基準等に関する規程(大学ホームページにて公開)
<https://www.gifu-cwc.ac.jp/wp/outline/disclosure/rules/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

＜学位授与の方針＞

本学では、教育目標に定める人材を育成するため、自らが作成したポートフォリオに沿って、所定の単位数を修得するとともに、所属学科において定める専門分野に関する知識・技能、および教養を深め、次の能力（チカラ）や態度・意欲を身につけた学生に学位を授与します。

1. 多様な価値観を許容するチカラ

多文化共生社会を担うため、他者への理解と許容力を有している。

2. 新たな価値を見出すチカラ

専門分野で得た知識・技能を社会で活用するため、新たな価値を見出す想像力と思考力、実践力を有している。

3. 共感と協調により繋がるチカラ

社会や地域に貢献するため、コミュニケーション能力とともに主体性と協調性を有している。

なお、各学科のディプロマ・ポリシーは次のとおり

(国際コミュニケーション学科)

国際コミュニケーション学科は、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、グローバルな視点を養いつつ、地域社会に根ざした実践教育を通じ、さまざまな文化的背景を持つ人々と円滑にコミュニケーションを取りながら、協働してよりよい地域社会をつくっていく際に中心的な役割を果たすことのできる人材の育成を目指します。そのために必要な専門分野を現代社会、文化交流、英語、東アジア言語の4領域とし、領域を横断しながら学びます。この目標を満たし、各領域の定める力や姿勢を身につけた人材に対し、「短期大学士（国際コミュニケーション学）」の学位を授与します。

・現代社会領域

地域や世界が抱える諸課題の解決や、地域や世界の持続的な発展のための行動に必要な知識とスキルを身につけ、活用することができる。

・文化交流領域

さまざまな国や地域の文化や価値観に対する知識と、それを尊重する姿勢を身につけ、コミュニケーションの場で中心的な役割を果たすことができる。

・英語領域

世界共通語とされる英語の実践力を身につけ、さまざまな情報や自らの意見を、国際的な場面や地域社会に向けて発信することができる。

・東アジア言語領域

隣国であり人的往来が最も多い中国、韓国の言語や日本語を、国内外でのコミュニケーションのために使用し、観光や外国人支援などの場で中心的な役割を果たすことができる。

(健康栄養学科)

健康栄養学科は、厚生労働大臣から認可を受けた栄養士養成課程であり、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、社会の要請に沿った質の高い栄養士の人材育成を目指します。医療・福祉領域、食環境領域の2領域とし、次に掲げる資質・能力を身につけた人材に対して、「短期大学士（健康栄養学）」の学位を授与します。

1. 栄養士の役割を理解し、高い倫理観と強い責任感・使命感をもって、行動できる

2. 「健康・栄養・食」に関わる課題に対して、専門的知識および技術をもって、解決方法を探究できる

- 3. 豊かな人間性をもって、他者と円滑なコミュニケーションができる
- 4. 栄養の専門家として、生涯にわたり自律的に学び自己研鑽できる

・医療・福祉領域

少子・超高齢社会の現代において、生活習慣病者や要介護者が増加し、同時に国民医療費が増大している。これらの諸問題の解決に必要な知識とスキルを持っている。

・食環境領域

地域の食環境を活かした食の力で、地域住民の健康寿命の延伸、生活の質（QOL）の向上に寄与し、幸せな健康長寿社会の実現に貢献するための発信力を持っている。

（デザイン環境学科）

デザイン環境学科は、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、持続可能な社会の実現のため「自然環境との共生」「素材から取り組む本物志向」「人々を動かす力の向上」を軸に、デザインの思想や意義と地域産業への理解を深め、共感と協調に基づいて社会生活における諸課題を解決する能力を身につけた人材の育成を目指します。そのために必要な専門分野をファッション、建築・インテリア、ヴィジュアルの3領域とし、領域を横断しながら学ぶことを教育目標とします。この目標を満たし、各領域の定める具体的資質を身につけた人材に対し、「短期大学士（デザイン環境学）」の学位を授与します。

・ファッション領域

高品質な素材縫製技術による「本物志向」の教育を通して持続可能なファッション文化の実現を目標に、地域の繊維産業と連携しながら素材・製造・販売までの実践的な能力を身につける。

・建築・インテリア領域

自然環境との共生を再認識し、産官学連携による実践的な地域活動に積極的に取り組む中で、持続性のある建築・地域づくりに貢献する。

・ヴィジュアル・情報領域

ビジュアルコミュニケーションを効果的に学修するため、従来の視覚情報について学ぶとともに、現代社会に適した情報科学を学び、創造的な取り組みを実践する。

<卒業要件>（学則第31条及び32条に記載）

卒業のためには、2年以上在学し、教養教育科目15単位以上、専門教育科目48単位以上を習得しなければならない。

<卒業判定>

学長が教授会の意見を聞いて判定する。

卒業の認定に関する 方針の公表方法	学則、学修規程(大学ホームページにて公開) https://www.gifu-cwc.ac.jp/wp/outline/disclosure/rules/
----------------------	--

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	岐阜市立女子短期大学
設置者名	岐阜市

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	
収支計算書又は損益計算書	記入を要しない
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告(書)	

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 本学ホームページ 自己評価報告書 https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/disclosure/assess/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 本学ホームページ 令和5年度認証評価結果 https://www.gifu-cwc.ac.jp/wp/outline/disclosure/assess/assess_01_2024/

(3) 学校教育法施行規則第172条の2第1項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 国際コミュニケーション学科
教育研究上の目的(公表方法: 本学ホームページ https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/aim/)

(概要) グローバルな視点を養いつつ、地域社会に根差した実践教育を通じ、さまざまな文化的背景を持つ人々と円滑にコミュニケーションを取りながら協働して地域の魅力を高め、よりよい地域・社会をつくっていく際に中心的な役割を果たすことのできる人材の養成。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページ https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/ ）
(概要) 国際コミュニケーション学科は、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、グローバルな視点を養いつつ、地域社会に根ざした実践教育を通じ、さまざまな文化的背景を持つ人々と円滑にコミュニケーションを取りながら、協働してよりよい地域社会をつくっていく際に中心的な役割を果たすことのできる人材の育成を目指します。そのために必要な専門分野を現代社会、文化交流、英語、東アジア言語の4領域とし、領域を横断しながら学びます。この目標を満たし、各領域の定める力や姿勢を身につけた人材に対し、「短期大学士（国際コミュニケーション学）」の学位を授与します。 ・現代社会領域 地域や世界が抱える諸課題の解決や、地域や世界の持続的な発展のための行動に必要な知識とスキルを身につけ、活用することができる。 ・文化交流領域 さまざまな国や地域の文化や価値観に対する知識と、それを尊重する姿勢を身につけ、コミュニケーションの場で中心的な役割を果たすことができる。 ・英語領域 世界共通語とされる英語の実践力を身につけ、さまざまな情報や自らの意見を、国際的な場面や地域社会に向けて発信することができる。 ・東アジア言語領域 隣国であり人的往来が最も多い中国、韓国の言語や日本語を、国内外でのコミュニケーションのために使用し、観光や外国人支援などの場で中心的な役割を果たすことができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/ ）
(概要) 本学のカリキュラム・ポリシーに基づき、全学科共通の教養教育科目と専門領域に対応した専門教育科目によりカリキュラムを編成・実施します。 ◆編成 4つの専門領域（「現代社会」、「文化交流」、「英語」、「東アジア言語」）を編成します。 専門教育科目は、段階的に知識や実践力を身につけるため、「領域共通科目」と「領域専門科目」に分けて、年次や学期が進むにつれて発展的な内容になるよう編成します。 領域共通科目は、各領域での学びを概観する領域入門科目と、すべての領域に共通して、国際社会や地域社会の課題に取り組むために必要となる知識や実践力を身につけるための領域基礎科目で編成します。 ◆実施 講義や演習、協働作業や発表等を適切に組み合わせて実施します。 1 年次後期から、4つの専門領域のいずれかに所属し、他の領域の科目も履修しながら、国際社会や地域社会の発展や問題解決に資する力を身につけます。 地域企業等でインターンシップを行う「産業・地域振興人材研修」や「海外演習」など、地域等との交流を通じて自身のキャリアデザインを描くため、地域と連携した授業を実施します。 ◆評価 シラバスに明示した評価方法（定期試験・レポート・プレゼンテーションなど）と、各科目で設定した到達目標への到達度とで評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページ https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/ ）
（概要） さまざまな文化的背景をもった人々と協働し、地域と世界のつながりを意識しながらその持続的な発展のために行動する意欲をもった者の入学を求めています。日本を含むさまざまな国や地域の社会・文化について深く学ぶ意欲、コミュニケーションの手段としての英語や中国語・韓国語の習得に対する意欲をもった学生を歓迎します。

学部等名 健康栄養学科
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/aim/ ）
（概要） 少子・超高齢社会の現代における諸問題の解決に必要な知識とスキルを身につけ、地域の食環境を生かした食の力で、地域住民の健康寿命の延伸、生活の質（QOL）の向上に寄与し、幸せな健康長寿社会の実現に貢献できる栄養士の養成。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページ https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/ ）
（概要） 健康栄養学科は、厚生労働大臣から認可を受けた栄養士養成課程であり、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、社会の要請に沿った質の高い栄養士の人材育成を目指します。医療・福祉領域、食環境領域の2領域とし、次に掲げる資質・能力を身につけた人材に対して、「短期大学士（健康栄養学）」の学位を授与します。 1. 栄養士の役割を理解し、高い倫理観と強い責任感・使命感をもって、行動できる 2. 「健康・栄養・食」に関わる課題に対して、専門的知識および技術をもって、解決方法を探究できる 3. 豊かな人間性をもって、他者と円滑なコミュニケーションができる 4. 栄養の専門家として、生涯にわたり自律的に学び自己研鑽できる ・医療・福祉領域 少子・超高齢社会の現代において、生活習慣病者や要介護者が増加し、同時に国民医療費が増大している。これらの諸問題の解決に必要な知識とスキルを持っている。 ・食環境領域 地域の食環境を活かした食の力で、地域住民の健康寿命の延伸、生活の質（QOL）の向上に寄与し、幸せな健康長寿社会の実現に貢献するための発信力を持っている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/ ）
（概要） 本学のカリキュラム・ポリシーに基づき、全学科共通の教養教育科目と専門領域に対応した専門教育科目によりカリキュラムを編成・実施します。 ◆編成 2つの専門領域（「医療・福祉」、「食環境」）を編成します。 栄養士養成課程の法令に定められた「教養教育科目」と「専門教育科目」を基本にカリキュラムを編成します。 「医療・福祉領域」は、医療・福祉分野に必要な知識と技術を身につけ、病院・福祉施設での栄養改善、疾病の治療に貢献できる力を身につける科目を編成します。 「食環境領域」は、健康と食をつなぐ食品について幅広く学び、食に関連する多彩な

地域活動を通して実践力を養う科目を編成します。 ◆実施 栄養専門職に必要とされる専門知識や倫理観を養成するため、全学科共通の教養教育科目の履修により、幅広い教養を身につけると共に、栄養士免許の取得に必要な専門教育科目を履修します。 栄養に関する情報を収集・分析・活用する実践力を養うため、全学科共通の「情報科目」及び栄養に関する「情報科目」を履修します。 学修した知識を活用した能力を身につけるため、講義に加えて、講義に関連した実験・実習を実施します。 1 年次後期から、2 つの専門領域のいずれかに所属し、他の領域の科目も履修しながら、2 年次には、自主的に研究を行う「地域実践演習(卒業研究)」を通じて、自律的に学ぶ力を養います。また、栄養士に必要な課題解決能力やコミュニケーション能力、並びに協調性などを身につけます。 地域企業等との「校外実習」など、地域等との交流を通じて自身のキャリアデザインを描くため、地域と連携した授業を実施します。 ◆評価 シラバスに明示した評価方法(定期試験・レポート・プレゼンテーションなど)と、各科目で設定した到達目標への到達度とで評価します。	入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページ https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/ ） （概要） 栄養士免許取得を目指す者を受け入れ、その者に対して栄養士になるための教育を施すことを基本方針としています。栄養士は食と栄養の専門家として専門性を発揮し、国民の栄養改善、健康増進、疾病予防など重要な役割を担い、国民の医療費削減に貢献することが期待されています。「健康・栄養・食」に関わる諸問題に関心がある者の入学を求めています。将来、栄養士となり、人々の健康・医療・福祉のために貢献したい強い意志を持っている学生を歓迎します。
学部等名 デザイン環境学科 教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/aim/ ） （概要） 持続可能な社会の実現のため「自然環境との共生」「素材から取り組む本物志向」「人々を動かす力の向上」を軸に、デザインの思想や意義と地域産業への理解を深め、共感と協調に基づいて社会生活における諸課題を解決する能力を身につけた人材の養成。	卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページ https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/ ） （概要） デザイン環境学科は、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、持続可能な社会の実現のため「自然環境との共生」「素材から取り組む本物志向」「人々を動かす力の向上」を軸に、デザインの思想や意義と地域産業への理解を深め、共感と協調に基づいて社会生活における諸課題を解決する能力を身につけた人材の育成を目指します。そのために必要な専門分野をファッション、建築・インテリア、ヴィジュアルの3領域とし、領域を横断しながら学ぶことを教育目標とします。この目標を満たし、各領域の定める具体的資質を身につけた人材に対し、「短期大学士（デザイン環境学）」の学位を授与します。 ・ファッション領域 高品質な素材縫製技術による「本物志向」の教育を通して持続可能なファッション文化

の実現を目標に、地域の繊維産業と連携しながら素材・製造・販売までの実践的な能力を身につける。

・建築・インテリア領域

自然環境との共生を再認識し、産官学連携による実践的な地域活動に積極的に取り組む中で、持続性のある建築・地域づくりに貢献する。

・ヴィジュアル・情報領域

ビジュアルコミュニケーションを効果的に学修するため、従来の視覚情報について学ぶとともに、現代社会に適した情報科学を学び、創造的な取り組みを実践する。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ

<https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/> ）

（概要）

本学のカリキュラム・ポリシーに基づき、全学科共通の教養教育科目と専門領域に対応した専門教育科目によりカリキュラムを編成・実施します。

◆編成

3つの専門領域（「ファッション」、「建築・インテリア」、「ヴィジュアル・情報」）を編成します。

実践的な地域活動を通し、創造力や思考力を身につけるため、デザイン全般において必要不可欠な能力を養い、各領域の内容を見渡すことができる知識を習得する「領域共通科目」を編成します。

各領域では、専門分野毎に体系的に能力・技術を身につけるため、「領域科目」を編成します。

します。

◆実施

1年次前期は、領域を問わず演習・実習と講義を通じて、必要不可欠な基礎的な知識・技能を習得します。個々の適性を伸ばすトレーニングを膨らませ、本人が目標とする進路へ対応可能なスキルを磨きます。

1年次後期は、3つの専門領域に分かれ多角的な視点から考察し、知識・技能を習得します。少人数のゼミナールで、課題研究に取り組みます。

2年次は、専門領域の研究を通じて洞察力と創造力を養います。それぞれの所属するゼミナールにおいて、「地域実践演習（卒業制作、卒業論文）」に取り組みます。自分自身で物事を捉え考えられるように、教員及び学生相互のコミュニケーションを重ねながら研究・制作を深めます。

社会に貢献し、地域産業との交流を通じて自身のキャリアデザインを描くため、地元企業等と連携した授業を実施します。

◆評価

シラバスに明示した評価方法（定期試験・レポート・プレゼンテーションなど）と、各科目で設定した到達目標への到達度とで評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページ

<https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/policies/> ）

（概要）

生活に関わる必要かつ重要なデザインの発想および提案を基盤とした教育を行います。持続可能な社会の実現において、様々な問題を解決するために、デザインの中でも、ファッション、建築・インテリア、ヴィジュアル・情報の分野に関する知識・能力を身につけて社会に貢献したいという強い意志を持った者の入学を求めています。地域との連携による実践的な取り組みに積極的に参画する意欲をもった学生を歓迎します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：本学ホームページ（大学概要 沿革・組織）
<https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/history/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	2 人	－					2 人
国際コミュニケーション学科	－	3 人	4 人	2 人	人	1 人	10 人
健康栄養学科	－	2 人	2 人	3 人	人	3 人	10 人
デザイン環境学科	－	1 人	6 人	1 人	1 人	人	9 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
		36 人					36 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：本学ホームページ、研究紀要、リポジトリに掲載 https://www.gifu-cwc.ac.jp/wp/education_research/activities/ https://www.gifu-cwc.ac.jp/tosyo/kiyo/index.html					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
教授会に置かれた委員会において、F D 研修計画を立て、少なくとも 1 年に 1 回は全教員を対象とした F D 研修を実施している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
英語英文学科	-	-	%	0 人	1 人	%	人	人
国際コミュニケーション学科	90 人	48 人	53%	180 人	103 人	57%	人	人
健康栄養学科	50 人	47 人	94%	100 人	100 人	100%	人	人
デザイン環境学科	60 人	41 人	68%	120 人	98 人	82%	人	人
合計	200 人	136 人	68%	400 人	302 人	76%	人	人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業生数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
英語英文学科	2人 (100%)	0人 (0%)	2人 (100%)	0人 (0%)
国際文化学科	2人 (100%)	0人 (0%)	1人 (50%)	1人 (50%)
国際コミュニケーション学科	56人 (100%)	12人 (21%)	38人 (68%)	6人 (11%)
健康栄養学科	41人 (100%)	11人 (27%)	29人 (71%)	1人 (2%)
デザイン環境学科	48人 (100%)	8人 (17%)	36人 (75%)	4人 (8%)
合計	149人 (100%)	31人 (21%)	106人 (71%)	12人 (8%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 国際コミュニケーション：(進学)三重大学、南山大学 (就職)岐阜トヨタ、濃飛倉庫運輸、森トラスト&リゾート 健康栄養：(進学)岐阜女子大学、中部大学 (就職)日本ゼネラルフード、岐南さくら保育園、たんぽぼ薬局 デザイン環境：(進学)岐阜女子大学、相模女子大学 (就職)エム・ダブル・ラボ、三陽商会、チューキョーP&G				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内	留年者数	中途退学者数	その他
		卒業・修了者数			
国際コミュニケーション学科	64 人 (100%)	56 人 (88%)	6 人 (9%)	2 人 (3%)	0 人 (0%)
健康栄養学科	43 人 (100%)	41 人 (96%)	1 人 (2%)	1 人 (2%)	0 人 (0%)
デザイン環境学科	59 人 (100%)	48 人 (81%)	6 人 (10%)	5 人 (9%)	0 人 (0%)
合計	166 人 (100%)	145 人 (87%)	13 人 (8%)	8 人 (5%)	0 人 (0%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

学内教務事務を担当する教務委員会でシラバスに記載すべき項目を決定し、各科目の担当教員が作成して教務委員会に提出する。シラバスには、

- ・科目名、開講学科、担当教員名、単位数、必修／選択区分、科目区分、教員区分
- ・授業目的・到達目標
- ・授業概要（担当教員の実務経験の内容を含む）
- ・授業計画（15回分＋試験）
- ・予復習等
- ・評価方法
- ・履修条件
- ・教科書
- ・参考書

を記載し、ホームページに掲載するほか、冊子を学生に配付して周知している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

◆学習の成果に係る評価基準

予め学生に配付しているシラバスに記載の各科目の評価方法に基づき、

出席状況

受講態度

授業への参加姿勢

課題・レポート・制作物等提出物

授業内小テスト・中間テスト

定期試験・追試験・再試験

から授業目的・到達目標への到達度を判断し、科目の成績を合格・不合格に分け、さらに合格をA+、A、B及びCに区分して単位を認定している。

区分	得点	成績評価	G P
合格	100～90 点	A+	4.0
	89～80 点	A	3.0
	79～70 点	B	2.0
	69～60 点	C	1.0
不合格	59 点以下	F	0

可否及び成績は所定の期日までに学生に通知する。なお、学生は成績評価方法との矛盾や明らかな担当教員のミスと思われる結果に対しては、異議申立書を提出することができる。

◆卒業の認定に係る評価基準

<学位授与の方針>

本学では、教育目標に定める人材を育成するため、自らが作成したポートフォリオに沿って、所定の単位数を修得するとともに、所属学科において定める専門分野に関する知識・技能、および教養を深め、次の能力（チカラ）や態度・意欲を身につけた学生に学位を授与します。

1. 多様な価値観を許容するチカラ

多文化共生社会を担うため、他者への理解と許容力を有している。

2. 新たな価値を見出すチカラ

専門分野で得た知識・技能を社会で活用するため、新たな価値を見出す想像力と思考力、実践力を有している。

3. 共感と協調により繋がるチカラ

社会や地域に貢献するため、コミュニケーション能力とともに主体性と協調性を有している。

なお、各学科のディプロマ・ポリシーは次のとおり

(国際コミュニケーション学科)

国際コミュニケーション学科は、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、グローバルな視点を養いつつ、地域社会に根ざした実践教育を通じ、さまざまな文化的背景を持つ人々と円滑にコミュニケーションを取りながら、協働してよりよい地域社会をつくっていく際に中心的な役割を果たすことのできる人材の育成を目指します。そのために必要な専門分野を現代社会、文化交流、英語、東アジア言語の4領域とし、領域を横断しながら学びます。この目標を満たし、各領域の定める力や姿勢を身につけた人材に対し、「短期大学士（国際コミュニケーション学）」の学位を授与します。

・現代社会領域

地域や世界が抱える諸課題の解決や、地域や世界の持続的な発展のための行動に必要な知識とスキルを身につけ、活用することができる。

・文化交流領域

さまざまな国や地域の文化や価値観に対する知識と、それを尊重する姿勢を身につけ、コミュニケーションの場で中心的な役割を果たすことができる。

・英語領域

世界共通語とされる英語の実践力を身につけ、さまざまな情報や自らの意見を、国際的な場面や地域社会に向けて発信することができる。

・東アジア言語領域

隣国であり人的往来が最も多い中国、韓国の言語や日本語を、国内外でのコミュニケーションのために使用し、観光や外国人支援などの場で中心的な役割を果たすことができる。

(健康栄養学科)

健康栄養学科は、厚生労働大臣から認可を受けた栄養士養成課程であり、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、社会の要請に沿った質の高い栄養士の人材育成を目指します。医療・福祉領域、食環境領域の2領域とし、次に掲げる資質・能力を身につけた人材に対して、「短期大学士（健康栄養学）」の学位を授与します。

1. 栄養士の役割を理解し、高い倫理観と強い責任感・使命感をもって、行動できる
2. 「健康・栄養・食」に関わる課題に対して、専門的知識および技術をもって、解決方法を探究できる
3. 豊かな人間性をもって、他者と円滑なコミュニケーションができる
4. 栄養の専門家として、生涯にわたり自律的に学び自己研鑽できる

・医療・福祉領域

少子・超高齢社会の現代において、生活習慣病者や要介護者が増加し、同時に国民医療費が増大している。これらの諸課題の解決に必要な知識とスキルを持っている。

・食環境領域

地域の食環境を活かした食の力で、地域住民の健康寿命の延伸、生活の質（QOL）の向上に寄与し、幸せな健康長寿社会の実現に貢献するための発信力を持っている。

(デザイン環境学科)

デザイン環境学科は、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、持続可能な社会の実現のため「自然環境との共生」「素材から取り組む本物志向」「人々を動かす力の向

上」を軸に、デザインの思想や意義と地域産業への理解を深め、共感と協調に基づいて社会生活における諸課題を解決する能力を身につけた人材の育成を目指します。そのために必要な専門分野をファッション、建築・インテリア、ヴィジュアルの3領域とし、領域を横断しながら学ぶことを教育目標とします。この目標を満たし、各領域の定める具体的資質を身につけた人材に対し、「短期大学士（デザイン環境学）」の学位を授与します。

・ファッション領域

高品質な素材縫製技術による「本物志向」の教育を通して持続可能なファッション文化の実現を目標に、地域の繊維産業と連携しながら素材・製造・販売までの実践的な能力を身につける。

・建築・インテリア領域

自然環境との共生を再認識し、産官学連携による実践的な地域活動に積極的に取り組む中で、持続性のある建築・地域づくりに貢献する。

・ヴィジュアル・情報領域

ビジュアルコミュニケーションを効果的に学修するため、従来の視覚情報について学ぶとともに、現代社会に適した情報科学を学び、創造的な取り組みを実践する。

＜卒業要件＞（学則第31条及び32条に記載）

卒業のためには、2年以上在学し、教養教育科目15単位以上、専門教育科目48単位以上を習得しなければならない。

＜卒業判定＞

学長が教授会の意見を聞いて判定する。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	国際コミュニケーション学科	63 単位	有・無	あり
	健康栄養学科	63 単位	有・無	あり
	デザイン環境学科	63 単位	有・無	あり
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：本学ホームページに掲載 https://www.gifu-cwc.ac.jp/wp/campus_life/about_class/		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：学生に各授業の理解度、授業の評価等を問う授業アンケートを実施し、結果は各教員に配付するほか、図書館に置いている。		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：学生便覧及び本学ホームページ

<https://www.gifu-cwc.ac.jp/outline/institution>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
	国際コミュニケーション学科	390,000 円	(市内生) 169,200 円 (市外生) 302,100 円	円	
	健康栄養学科	390,000 円	(市内生) 169,200 円 (市外生) 302,100 円	(調理実習費) 20,000 円	
	デザイン環境学科	390,000 円	(市内生) 169,200 円 (市外生) 302,100 円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) クラス担任教員のオフィスアワーにおける相談を主に、学生ごとの事情を踏まえて事務局と連携しつつ支援を行っている。 経済的支援としては、奨学金担当職員による相談や授業料の減免・徴収猶予等の相談を受け付けている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 進路支援委員会教職員による相談・推薦者選抜業務や、キャリア支援室の企画による学内での就職ガイダンス、進学・編入学支援情報の提供等を行っている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) クラス担任教員のオフィスアワーにおける相談の他、保健担当嘱託職員による支援、健康相談医(女性)、臨床心理士(女性)カウンセリングを実施している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：本学ホームページ (教育・研究活動、研究紀要、ニュースレター、データサイエンス) https://www.gifu-cwc.ac.jp/education_research/
--